景観まちづくり学習助成事業実施校　学校名 横浜市立鶴見小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 11「地域景観プランナーになろう。」
単元名 （全15時間）	鶴見川の環境のことをパンフレットやイベントで伝えよう
学習のねらい	持続可能な川のために情報発信することを通して まちとつながり、地域のために活動する意識を高める。
学習内容	1 情報の整理・分析と課題解決のための方法 2 まちの協力者にプレゼンテーション 3 イベントへ向けた計画と準備 4 イベントの開催
参考資料 準備品 実施場所等	指導案、公式ファンブック、タウンニュース スタッフTシャツ、エコバッグ 鶴見川干潟及び鶴見小学校体育館。

学習の流れ 指導案参照。

時間	学習活動	教師の指導	評価

<留意点>

総合的な学習の時間　学習指導案

横浜市立鶴見小学校
指導者　早川　洋一

1　日時・組　　令和４年３月２０日（日）第５学年２組　３９名
　場　所　　鶴見川干潟（通称：貝殻浜）と横浜市立鶴見小学校体育館

2　単元名　「　STGｓ（サステナブル鶴見川ゴールズ）～持続可能な鶴見川を目指して～　」

3　単元について

子どもの思いや願い

今年の総合でどんな力を身に付けたいかを話し合うと、「情報収集・整理・分析の力」「表現する力」など多くの身に付けたい力が挙がったが、全員が同じ思いで身に付けたいと思ったのは「団結力」だった。活動を通して仲間と協力していきたいという思いが強いことが分かった。
また、活動することで分かったことや学んだことを「何かしらの方法で発信し、まちの方々を元気にしたい。」という願いをもっていることも分かった。昨年度、「ビオトープやゴーヤー栽培をした子どもたち。引き続きそれらの知識と経験を生かして、鶴見川の生態調査も行いたいという願いをもっている。

身に付けさせたい力と材について

ビオトープの日陰を計画的に設計し、川の生態を調査することを通して、必要な情報を収集し、身近な環境問題へ主体的に関わり、環境改善へ協同的に取り組めるようにする。そうすることで、今まで地域や環境を支えてきた多くの方々の存在や思いを知ったり、学校とまちのつながりについて気付いたりすることができると考える。また全校児童や学校の教職員、地域の方と繰り返しかかわることで、最高学年に向けての意識を高め、学校をさらに発展させていきたいという思いを高めたい。
また、専門家から教わることを通して、専門的な知識や技能だけではなく、働く人の生き方に触れ、自分の生き方を考えていくきっかけになると考える。

単元目標

「池と地域を取り囲む鶴見川の環境から持続可能な取り組みを考えたい。」「地域の方々に何かを発信し、関わった方々を喜ばせたい。」という思いの実現に向け、ビオトープ作りや鶴見川生態調査の活動を通して、学校は地域や様々な方々とつながりながら文化や環境を形成してきたことを知り、環境に対する自分たちのかかわり方に気付くとともに、学校や地域の今後の発展のために自分にできることを考え、行動しようとする。

探究課題の解決を通して育てたい資質・能力

探究課題	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【探究課題の分類】 鶴見のまちや学校の価値、それを支える人々の維持発展や問題解決に向けた行動や取組	○鶴見のまちや学校の様々な文化や環境は、互いに働きかけあったり、つながりあったりしながら、その価値を形成していることが分かる。 ○環境的な課題の解決に向けて、考えたことを行動に移すことが持続可能な社会づくりにつながっていくことが分かる。	○思いや願いの実現に向けて、見通しをもち解決すべき課題を設定し、解決への具体的な方法や手順を考える。 【課題の設定】 ○課題に沿って方法を吟味や工夫をし、体験や調査から目的に合った情報を得る。 【情報の収集】 ○課題の解決に向けて、比較、分類、関係付けるなどして、情報を整理・分析する。 【整理・分析】 ○自分の思いや考えを立場や根拠を明確にしながらまとめ、相手や目的に沿って表現する。 【まとめ・表現】	○課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして、力を合わせ粘り強く取り組もうとする。 ○地域や課題解決に向けて、自分のよさを発揮し主体的に実行しようとする。
【探究課題の分類】 学校や地域の方や専門家の方の出会いから考える将来の生き方	○様々な仕事にはそれぞれの魅力があり、働く人は、夢や誇りをもち努力していることが分かる。		○自己の成長や大人に近づくことを自覚したり、多様な考え方や新たな視点を受け入れようとしたりしようとする。

4　研究テーマに迫るための手立てと単元構想　(全70時間)

STGｓ（サステナブル鶴見川ゴールズ）～持続可能な鶴見川を目指して～

1．総合を立ち上げよう。③

・これまでの総合を振り返り、今年度の取組について話し合う。
・話し合ったことをもとに材・活動の候補を考える。
・ゴールと計画を明確にし、見通しをもつ。

・活動を通して団結できるといいな。でも自分たちがまちに対して何ができるかな。
・昨年の総合の活動から、自分たちが身に付けた知識や技能を生かして何かやりたいな
・ビオトープと鶴見川の生態調査を通して自分たちの思いが実現できそうだな。

【学びどころ①】
身に付けたいカをクラスで確認することで、共通の目標をもち、総合での取り組みを設定する。今までの総合の取組を生かして、ビオトープ、ゴーヤ、環境を合わせたSDGｓへつながる取り組みを計画し、年間の見通しをもつ。

2．鶴見川の生物って何がいるんだろう？【本時】⑯

・TRネットワークと協力し干潟の生態調査を行い、分かったことを整理・分析する。
・自分たちが鶴見川の環境保全に対してできることを考え、今後の活動内容を決定する。
・絵のかき方などについて芸術大学のＨさんから学ぶ。

・鶴小の周りを囲んでいるけど、調べてみたら色々な生きものがいたな。でも、もっと環境をよくしていけないかな。自分たちができることを考えて、行動を起こしていきたいな。
・活動の大まかな内容が決まったから、それぞれ内容ごとに作っていこう。
・Ｈさんから絵や芸術についていろいろ学ぶことができたな。

【学びどころ②】
TRネットとの生態調査を通して、鶴見川を見守っている方の思いや願いを学ぶ。

【学びどころ③】
Ｈ先生から調べた生きものを絵で表現することの楽しさと技能を教えてもらう。

3．鶴見川のみカを学校やまちに発信していこう⑯

・ビオトープ、水族館など内容ごとにチームを作り、役割分担を行う。
・内容ごとに大まかな計画を考える。
・調べた内容から自分たちで実行できることと専門家に相談することを明確にする

【学びどころ④】
砂田川を再生させたＴさんの思いに触れ、人間の意識が変わると環境が変わることに気付く。

・チームで調べて分かったことが色々出てきたから、クラスで共有しよう。
・自分たちの伝えたい思いが分かってきたな
・自分が決めたことだからという思いで２０年間続けてきたことがすごいな。
・続けることが環境意識の啓発にもなっているんだね。

4．池や鶴見川の環境や自然と人の共生への思いを伝えよう。⑳

・鶴見川に生息する生きものについて調べる。(鶴見川流域センター)
・自然と人が共に暮らすために、自分たちにできる環境づくりを考える。
・内容ごとに調べたことをまとめる。
・内容について全体で共有し、アドバイスを出し合い改善を図る。
・内容ごとのタイトルやデザインを決め、映像を完成させる。
・学習してきたことや思いを絵に表現し環境意識を啓発し、鶴小の池の楽しさや鶴見川の環境を伝える活動を行う。

【学びどころ⑤】
環境について調べたことをまとめ、自分たちの活動と学校やまちのつながりを映像化して情報発信をすることで、身に付いた力を実感し、表現力を高める。

・今まで調べてきたことや分かったことを整理してみよう。
・チームで調べて分かったことが色々出てきたから、クラスで共有しよう。
・自分たちの伝えたい思いが分かってきたな。
・思いをどのようにして表現するか考えよう。映像で伝えるのか、ポスターがいいか効果的に伝えていきたいな。

【学びどころ⑥】
完成したパンフレットや今までの情報発信での反応を分析する。分析した内容から鶴見のまちと学校とのつながりや尊さに気付く。

5．鶴見川の環境のことをパンフレットやイベントで伝えよう。⑮

・年間の活動を振り返り、「Lets’ツルスイ大作戦」というイベントで情報発信。

・自分たちの思いをまちの若い人たちにも発信していきたい。そのために、YouTubeなどのSNSを活用できないかな。

5　小単元の構想

（1）本小単元で育てたい資質・能力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○自分たちと学校やまちとの関係について、互いに関わり合いつながりがあることに気付く。	○課題の解決に向けて、比較、分類、関係付けるなどして、情報を整理・分析する。 ○自分の思いや考えを立場や根拠を明確にしながらまとめ、相手や目的に沿って表現する。	○課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして、力を合わせ粘り強く取り組もうとする。

（2）小単元目標

昨年度末に区役所で国土交通省とコラボして開催したツルスイ（鶴見川水族館）のアンケートの情報を整理・分析し、若い世代に知ってもらうための情報の発信を考え、効果的な方法を選び、実施できるようにする。今までの活動とまちとのつながりを見つめ直し、つながりをさらに広げるためにイベントを実施し、まちのために活動していく。

（3）小単元展開　学習課題と学習活動　期待する子どもの姿・変容

5．鶴見川の環境のことをパンフレットやイベントで伝えよう。【報告単元】⑮

○ツルスイのアンケート結果を整理・分析し、課題解決の方法を考えよう。②
・１０代、２０代の若い世代の来場数が少なかったので、YouTube 配信を行い、若い世代に効果的に伝えられるようにする。

・来場者は、親の世代と６０代以上が多いな。
・どうしたら、もっと若い世代に情報を発信することができるかな。
・いつでもどこでも手軽に手元で見ることのできる SNS での発信が効果的ではないかな。

○SNS での情報発信について、協力してくれる人にプレゼンテーションしよう②
・横浜市政策局や横浜ユース、市議会議員、市立高校、地元商店街など協力してくれる人とつながる。
・高校生と一緒に子ども発信で地域にＳＤＧ’ｓを呼びかけるイベントを行う。
・やりたいことを出し合い、具体的に実行できるものを決定する。

・水族館は見るだけだから、干潟を会場にして捕まえる体験をすればもっと川に興味をもてると思う。
・来てくれた人に渡す、ツルスイ公式ファンブックがあると、写真やイラスト、文字で伝えられる。
・来てくれた人に拡散してもらえるように、顔出し看板を作っておくといいのではないかな。
・鶴見区は外国人が多いから、言葉が伝わらなくても渡せる魚の折り紙もいいね。
・マイクロプラスチック削減のためにエコバッグも作れないかな。

○イベントへ向けて、担当を決めて制作や準備をしよう。⑪
・イベントに来てくれる人のことを考えて、準備を進める。
・自分たちで責任をもって活動を進め、リーダーシップを発揮して、協働して開催する。
・よりたくさんの人に伝えるために、YOU TV の撮影を依頼し、情報発信してもらえるようにする。

・限られた時間の中で、成功させるために計画的に準備を進めなくてはいけないね。
・見通しをもって必要なものを準備したり、協力してもらったりしたいね。

○イベント
・鶴見川流域ネットワーキングや市立高校、横浜ユース、地元企業とともにイベントを開催する。

・生き物を捕まえる体験を通して、たくさんの方に生物の多様性を知ってもらえたね。
・エコバッグも好評だった。鶴見川のためになることができてよかった。
・これから先も持続可能な活動を目指していきたいな。

③　実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 身近な材でまちとつながれる活動へと広がるかどうかを考え、子ども達の思いや願いを大切にしながら主体的な学びとなるようにしたこと。
(2) 実施にあたり苦労した点 連携機関が多く、調整が難しかった。また、自然が相手なので、天気や干潮時に合わせること、生物の飼育など課題もあった
(3) 児童の反応 自分達の思いを表現する度に手ごたえを実感し、区や市、国土交通省や環境省ともつながることができ、やりがいを感じていた。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 子どものアイデアや意見に耳を傾け、子どもと一緒に解決していくことが主体的で対話的な学びにつながることを実感できた。
(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕 より豊かな川を目指すためには、河口付近の本校のみではなく、流域全体とつながり、この課題を自分ごととしてとらえられるような情報発信や活動を継続していきたい。

ギョ
アイ~~ド~~ル
グループ!?

Tsurumigawa 20

公式ファンブック

「STGs ～持続可能な鶴見川の豊かさを目指して～」

Let's ツルスイ大作戦!!

STGsは、SDGsのDを鶴見川のTに変えた造語です。Sustainable Tsurumigawa Goals＝「持続可能な鶴見川の目標」という意味です。

私たちは**「持続可能な鶴見川を目指して」**というテーマで、総合的な学習の時間に鶴見川のことについて学んできました。身近にある川だけれど、近づいてはいけないと言われていて、遠い存在だったから興味をもちました。

学校から川沿いを河口へ下っていくと、ゴミがたくさんあり、やっぱりきれいではないなという印象でした。しかし、クラゲやカメ、小魚をたくさん見つけました。河口にある鶴見川干潟につくと、カニが驚くほどたくさんいることも知りました。「汚いと思っていたのに生きものがたくさんいるのはどういうことなのか」と疑問をもち、川や生きものについてもっと知りたいという欲求が生まれました。そこで、**鶴見川ネットワーキング**の小林さんとZOOMでつながり、鶴見川の歴史（図１）や生きものの豊富さ（図２）を教えてもらいました。そして**水質はきれい**だということが分かり、とてもびっくりしました。絶滅危惧種のウナギ、メダカもたくさん泳いでいるし、アユも泳いでいることを聞いた私たちは、鶴見川への見方が変わりました。

そして今度は、新たな疑問が生まれました。そんなにきれいな水質なのに、なぜあんなにごみがあるのかと。その答えは、まちにごみがあるからでした。（図３）鶴見川をもっと豊かな川にするためには、まちのごみを減らしたい。でも、「ごみを減らそう！」というマイナスキャンペーンはしたくない。それなら、私たちが感じたことをまちの人たちにも感じてもらえばいい。「こんなにたくさんの生きものが、鶴見川にいたのか！」と知れば、もっと川を大切にしたくなる。だから、**ツルスイ（鶴見川水族館）**をつくろうと行動を開始しました。

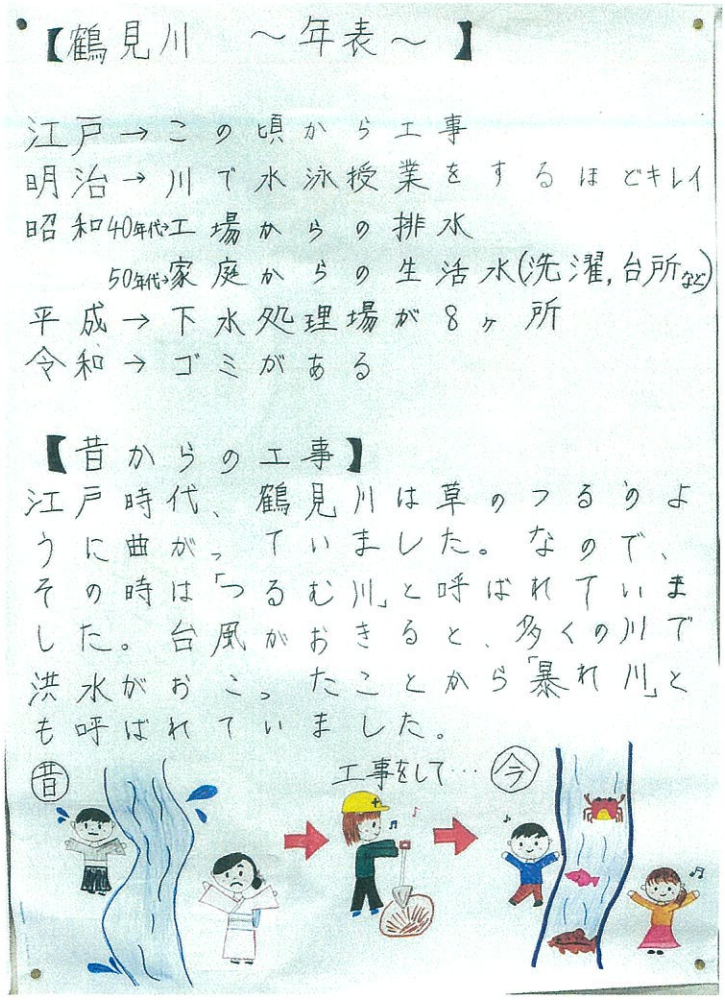
７月に、学校内で水族館を開きました。毎日、たくさんの子どもたちが水槽に集まり、１年生の「動いているカニを初めて見たよ！」という声を聞いて、やる気も高まりました。「もう終わっちゃうの？」「また開いてよ」という感想の声に、確かな成果を実感しました。さらにたくさんの人に興味をもってもらうために、捕まえた魚たちをキャラクター化することを思いつきました。アイドルならぬ、**アイギョルグループ**を結成して、川への関心を高めようと考えたのです。グループ名は**「TSURUMIGAWA 20」**。

次は、まちの中で水族館を開くんだと、区役所へ交渉。そして、この活動に共感してもらい、２週間もの長い期間、**鶴見区役所１Ｆホールで開催**させてもらえることになりました。鶴見川に関する歴史や水質、生き物に関するパネルを展示して、鶴見川で捕まえた２０種の生きもので水族館をオープンしました。アイギョルグループなので、歌も必要だと鶴見川のことを歌っている**オリジナルソング**も作りました。

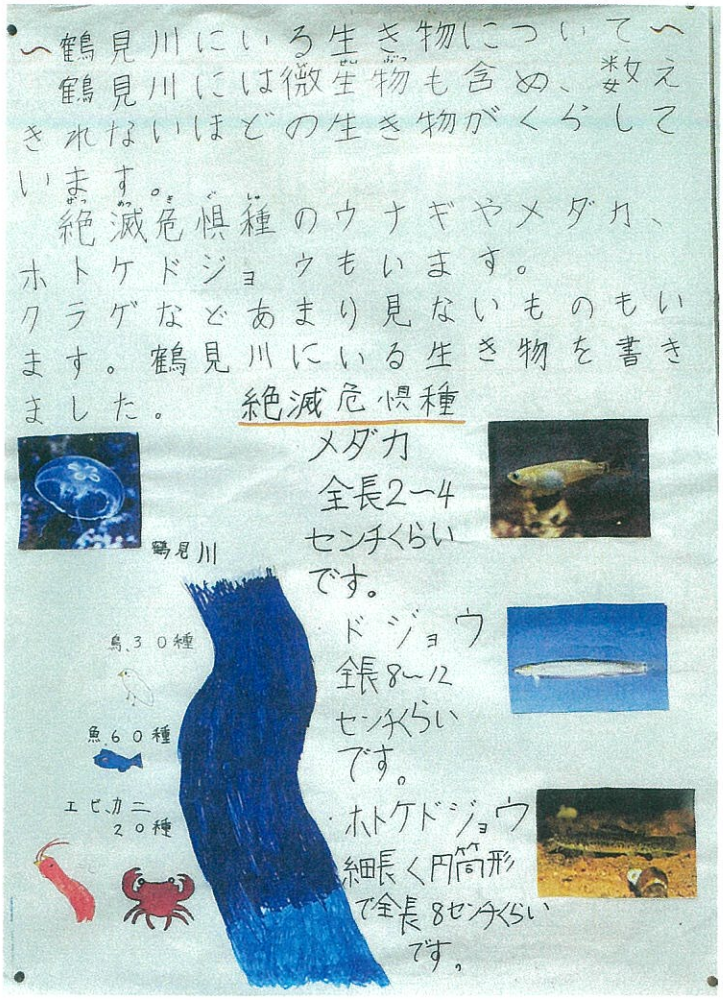
アンケートには、「汚い川だと思っていたけど、たくさんの生きものがいることに驚いた。」「まちのごみに目を向けるきっかけになった。」「これからもずっと自然の豊かな川であって欲しい。」など、私たちが伝えたかったことがまちの人たちに届いていることが分かりました。

さらに、より多くの人に伝えたいと思い、この**ツルスイ公式ファンブック**を作製しました。この活動は、自分たちだけではできません。また自分たちだけで続けることもできません。大切なことは、この活動に共感してくれる人を増やし続けていくことだと考えています。そして、「持続可能な」とある通り、これからもずっと続けていくことに意味があると考えています。この活動が、来年も、再来年も継続していくよう、これからも頑張っていきたいです。そして、みなさんと一緒に**未来の鶴見川を創造**していきたいです。

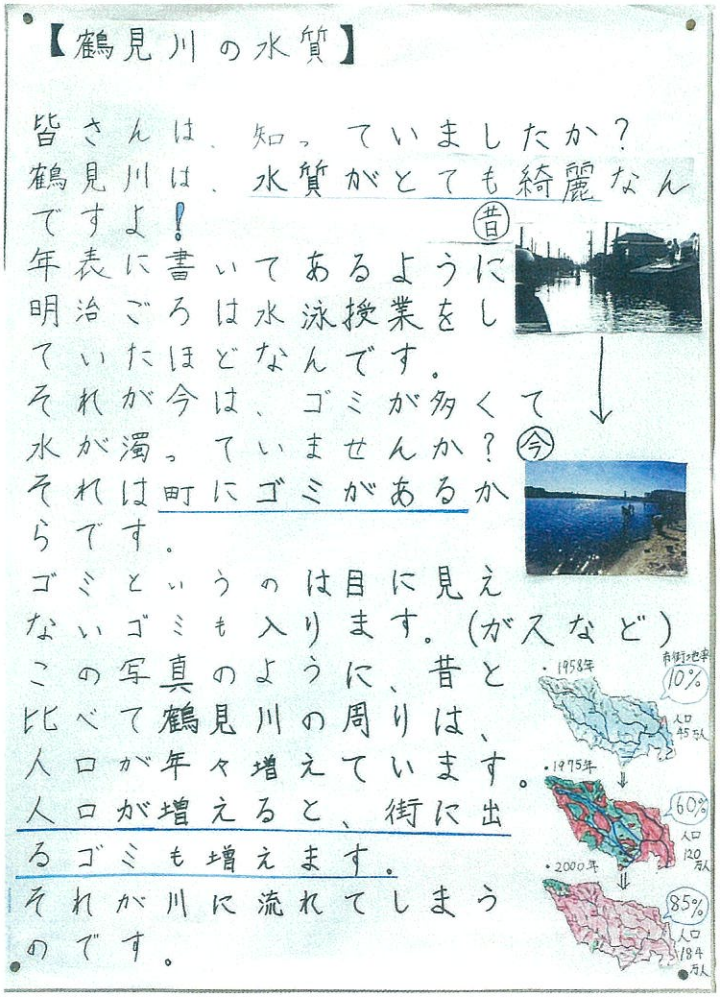
横浜市立鶴見小学校５年２組



鶴見川の歴史（図１）



鶴見川にいる生き物について（図２）



鶴見川の水質（図３）

オリジナルソング

STGs

1
横浜鶴見区鶴見川
わたし達魚のアイギョルです
鶴小５－２に選ばれた
１億分の20匹

2
シマハゼウロハゼミミズハゼ
他にもたくさんハゼいるよ
エビカニドジョウいろんな魚
アイギョルみんな元気です

3
昔の名前はつるむ川？
台風のたびに暴れ川
それでも護岸を工事して
アイギョルたちも安心です

4
工場排水生活排水
昔は水質悪かった
でもみんなの努力が報われて
水質とっても綺麗です

5
絶滅危惧種に選ばれた
メダカやウナギもいるんです
そのこと知ったわたし達
川への味方が変わったよ

6
横浜鶴見区鶴見川
鶴小５－２の水族館
見た人みんなが可愛がる
とってもかわいいアイギョルズ

アイギョルグループ

TSURUMIGAWA 20

タウンニュース®

鶴見区版

2022年（令和4年）4月7日(木)号 No.709

■発　行：株式会社タウンニュース社　https://www.townnews.co.jp
■編集室：〒231-0033 横浜市中区長者町2-5-14 セントラルビル2F　TEL：045-227-5050（代）FAX：045-227-5051
■発行責任者：宇山 知成
■編　集　長：土谷 晃

墓地・ペット墓・永代供
ご相談は、曹洞宗 潮田山 光
☎045・501・3405
【受付9時30分～17時】

鶴見小

「伝えたい、鶴見川の魅力」

企業、高校などと体験企画

鶴見小学校の5年2組（当時）が鶴見川について学んだ成果などを発表する「LET，Sツルスイ大作戦」が3月20日に行われた。

この企画は、同校の総合の授業が発展したもの。学校と企業などが連携し、キャリア教育を推進するはまっ子未来カンパニープロジェクトとして児童は昨年から鶴見川をテーマに学んできた。実際に川へ行き「ごみが多いが、生き物も多くいる」と感じた児童。川のごみを減らすためには、まちから減らすことが必要と考え、川の魅力を広く知ってもらおうと自分たちで捕まえた鶴見川の生き物を展示する企画・鶴見川水族館「ツルスイ」などを行ってきた。

鶴見川河口干潟で魚とり（上）、手作りの顔出し看板（左下）、ガチャガチャ（右下・全て学校提供）

若者に訴求を

活動の中でアンケートをとり、10～20代が少なかったことから若者に魅力を伝えたいと、横浜市政策局へ相談。東高校が協力し、イベントを実施することに。他にも児童の気持ちに刺激を受けた（公財）よこはまユース、ナイス㈱、YOUテレビ㈱などが協力する企画に発展した。

当日は児童の「自分で川の生き物を捕まえたらもっと好きになる」という思いのもと、鶴見川河口干潟で魚とり体験。活動を紹介するファンブックを配布した他、折り紙のガチャガチャを用意するなど工夫を凝らした。

午後には体育館で学習発表。東高校サステイナブル研究部の活動発表もあった。意見交換会では川近くに住む東高校の生徒が「こんなに生物がいるとは知らなかった」と話す場面もあった。児童は「人とつながる良さに気付けた」「情報発信力が身に付いた」などと活動を振り返った。

今後も同校で鶴見川の学習は進められる予定。YOUテレビによるドキュメンタリー映像制作なども検討されている。

障害児者団体連合会

35年の歴史に

運営ボラの人材不足で

障団連は、1986年に「障害（児）者団体協議会」として発足。それまで各団体が個別に行政に福祉施策の要望を出していたが、一緒に声をあげようということで15団体が参加。区内全体で障害者団体が協力し、ボランティアが運営を務める連合会を結成するのは市内でも例がないことだった。「当時はネットもなく、私を含め障害児者の子どもを持つ保護者が情報を集めるのも大変だった。また、地域の方にも障害への理解を深めてもらいたいという思いで初代会長らが立ち上げました」と藤田会長は語る。

障団連が行ってきた過去の成人式や運動会の様子

それから35年が経ち、現在の参加団体は37まで増えた。活動は行政への要望だけに留まらず、障害児者と区民が交流する「ふれあい運動会」やバザー、ピクニックなど、毎年多数のイベントも開催。その中でも特に保護者から喜ばれたのが30年以上に渡って区内で開催してきた成人式。横浜市でも障害者のための式を港北区の施設で開いているが、距離や障害の特性から難しいケースもあり、「地元で小さく開い